

堀岡 敏喜 議員 公明党



問 コロナ禍、相談支援の拡充を

答 関係強化に努める

問 新型コロナウイルスの影響で生活に不安を感じている人は多い。貴い命を一人でも失わないために、相談窓口の周知や、気軽に相談できる体制の構築が急務である。市の認識は。

答 健康福祉部長 感染症に伴う外出自粛や、生活環境の変化などが影響して、自殺者数は令和元年度2名から、令和2年度7名と急増。

問 相談体制の充実、相談事業の周知を徹底すべきでは。

答 「メンタルヘルスチェックこころの体温計」を導入し、早めの心のケアや相談窓口を紹介している。

問 県のSNSを利用した夜間・深夜帯のこころの相談「あいこころのサポート相談」を市も周知すべきでは。

答 大変有効と考える。広報やホームページ、メール

等を活用し周知に努める。

問 子どもや若者に対し、SOSの出し方や受け止め方に関し、学校での対応、市の認識と対応を伺う。

答 教育部長 長期休暇明け前後に、見守りを強化する。予防教育は関係機関との連携が重要で、小さなSOSにいち早く気づき、一層の関係強化に努める。

問	一括対応できる 相談体制急げ
答	相談しやすい 体制の整備をする

○住民の複合的な課題に一括して対応できる体制づくりを、市町村が進める改正社会福祉法が本年4月より施行されている。

問 深刻な生活上の悩みを幾つも抱える人にとって心強い支えとなるよう、自治体は取り組みなければならぬ。市の現状と対応は。

答 健康福祉部長 現在、新たに施行された事業への取り組みは行っていない。今後は、より一層市民が相談しやすい体制を整備していく。

問 市長総括を。
答 市長 窓口対応で、相談者に寄り添い、丁寧的確なアドバイスができるよう努めていく。



▲夜間・深夜帯のこころの相談「あいこころのサポート相談」



▲Twitter用



▲facebook用



▲LINE用